

第3章 調子进行

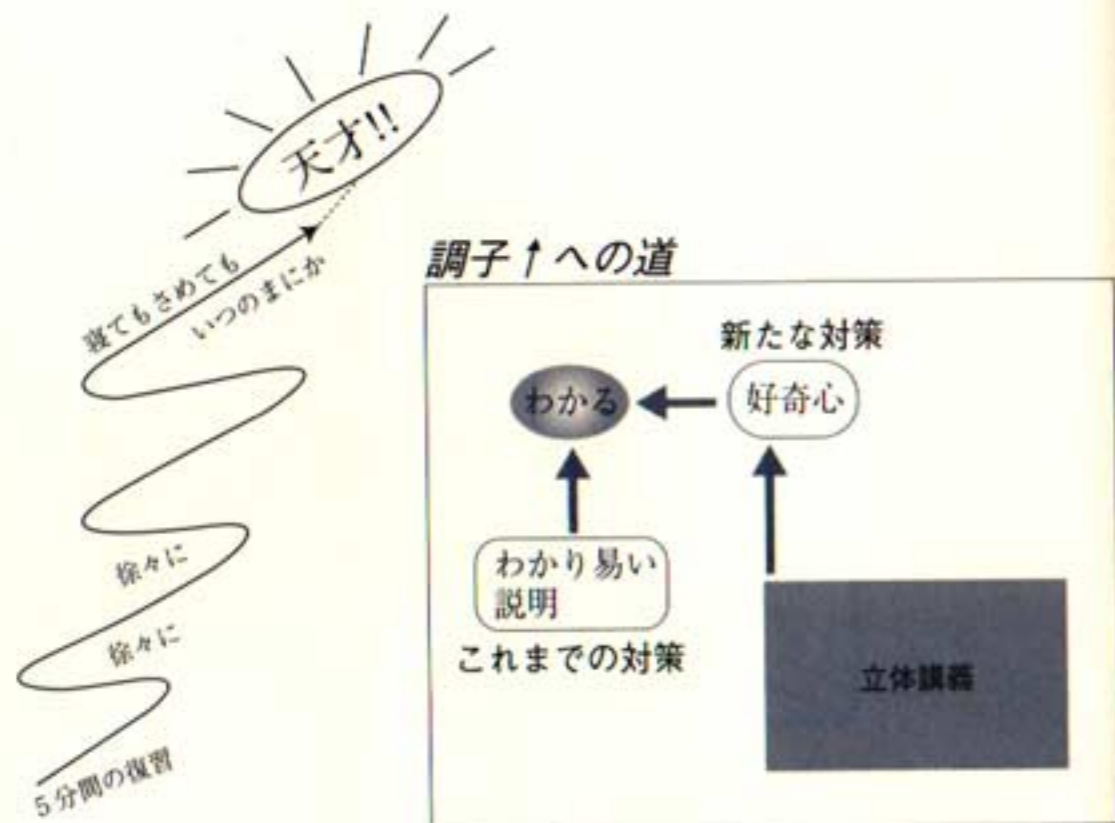


調子をつける準備として、1章と2章で大学生活の不安の解消とリズム化をとりあげ、これを導くためのS字カーブ法を紹介した。質問法、ながら法を実行した。次は上図のように調子のアップだ！

本章では「アップ術」を探究する。

3-1 「不完全でスタート」に続く天才への道

われわれにとって、「不完全でもいいよ」と言う言葉はありがたい。スタートする気を起こしやすい。長続きもする。気持ちにゆとりが出てくるので、「もっとよくしよう」、などという気も起こる。不完全を、教員や親から指摘されるのではなく、自ら気にするようになる。ここまできたら、もう、しめ



たものです。いつの間にか「三度のめしより……」, 「寝ても醒めても……」となる。いろいろな工夫もひとりで生まれてくる。

いい流れになったが。「この流れはどこにたどり着くのだろうか?」「流れというのは、みな海にいくんだべ……?」いんや、答えは、天才です。

天才とは努力しないでも何かを生み出す、というものではありません! こんな天才論では人生も社会もうまくいきません。天才ほど、寝ても醒めても考え込み、壊しては作り作っては壊し、試しては失敗し、泣いたり吼えたりして、ひょんな瞬間に成果がでるのです。だから、100人が100人天才になれるのです。

0と1の間は「不完全でいいよ」だったね。この“間(あいだ)”はまた、天才の生まれる空間でもある、というわけです。無限の可能性を内蔵した空間ということで、第2章62頁で $0 < \text{無限大} < 1$ (2-3) という超数学が誘導されたのでしたね。

例えば;

今日の予定
小テスト
本日の講義範囲
○○○
△△△
連絡事項

<予定を板書>アンケート抜粋

1. 授業のはじめに今日の予定を黒板の端に書いてくれたので、授業にのっていきやすかった。
2. 授業の内容を板書してくれたのは今日の「見通し」がついてよかったが、ときどき話が関係ないところにずれて、予定通り進まないこともあった。雑談もためになるが時間をかけすぎないようにしてほしい。

3-2 講義予定の板書 (2-2の続き)

人間は先が見えると安心でき、かつ集中もできます。逆に見えないと不安が先にたち、人の話が耳に入らなくなります。毎週、講義の始めに「本日の予定」を板書するのはこの意味で有意義です。

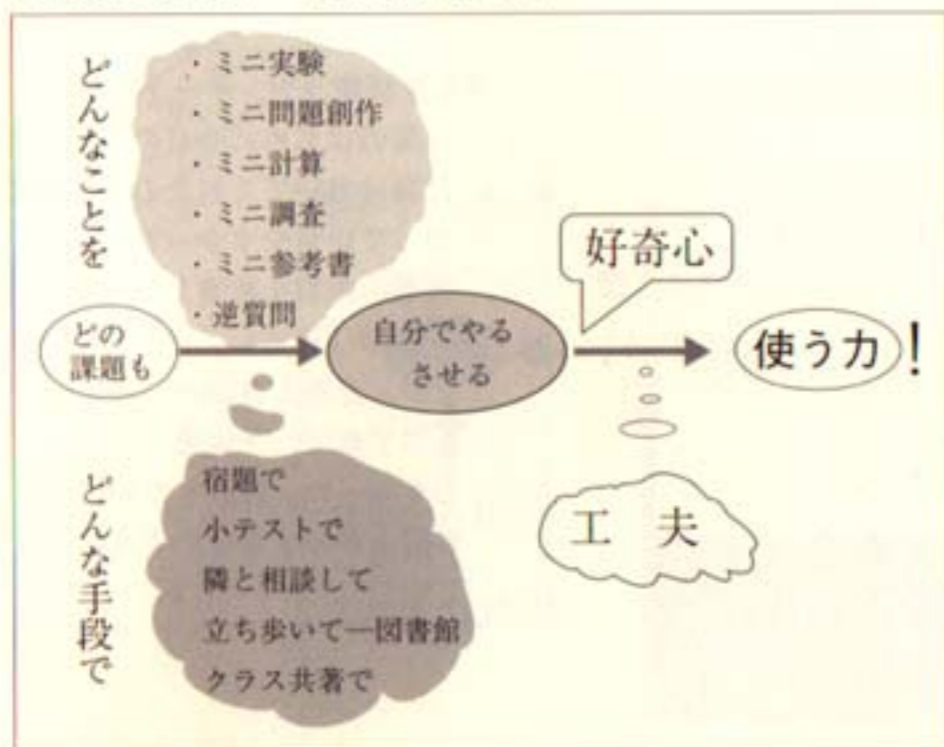
例えば; 今日の予定, 小テスト, 本日の講義範囲, ○○○, ×××, 連絡事項, というようなことを板書して、これは講義中黒板の隅にずっと書いておきます。学生諸君は90分の授業のうち、今どの辺まで進んだかがわかるわけです。

3-3 好奇心の立体講義

好奇心の喚起は、ただおもしろかった、では終わらない。学生の皆さんの調子アップに有効なようだ。好奇心は脳を刺激し人間の行動力を促す力があるからだろうか。

この好奇心を呼ぶ講義のスタイルをいろいろ工夫した。

どんなことを？ どんな手段で？



その結果講義が“立体化した”(アンケート2)のです。90分が変化に富むものになり、学生諸君に好評だった。

(1) 立体講義の内容

イラストに一覧したように講義の中に各種のイベントを導入した。いずれも学生諸君に実行してもらった。受身の姿勢から「自ら学ぶ」気持ちに、無意識のうちに、切り替わってくれることを願った。

(2) ミニ実験——宿題で

負担が軽く、興味を引く宿題も、学生諸君のリズムを作り出す。

これは同じテーマの宿題を2回繰り返すことでさらに興味が浸透した。どのように繰り返したのか？

1回目のレポートの中身を評価分類した。この結果を翌週に説明して、う

アンケート抜粋2

〈立体講義〉についてのアンケート
＝大学院M1年、学部3年の7月下旬学期末

1. この授業では自作自答の小テストとか自作参考書など、学生が自分で実行することが多かった。忙しかった反面、知識を自分のものにした気がした。
2. 1学期間を通じてこの講義ではいろいろなことを体験したので、退屈しなかったし、理解が深まった。

アンケート抜粋3

〈宿題のミニ実験〉についてのアンケート
＝教養1年生、6月上旬

1. 自分で実験するところが楽しい。どうなるか分からない状態で実験するので、ハラハラした。
2. 家で実験してから、教室で、他の人たちがやってみたことを先生が紹介したので、自分の方法と比べながら聴けて勉強になった。視野が広がる授業だった。

まく行かなかった学生に、再挑戦させた。うまくいった学生には更なる工夫と独創の機会を与えた。

2回目のレポートの結果も再び評価分類して、翌週総合のコメントをした。一ヶ月間にわたる「ミニ実習宿題」だったが、全員が期待に応えてくれた。中間アンケートをとったら、好評であった。

好奇心の刺激は、講義に関心を抱かせた。さらに独創力も養えたことがレポートから読み取れた。又、これらのレポートやアンケートを通じて入学直後の不安感がほとんどふっ飛んで、調子アップに向っていることが読みとれた。120名余りの新入生であったが、この宿題で講義への求心力もついた。第1回目に出席した学生は殆ど全員最後までついて来た。

~~~~~

### 宿題ミニ実験の内容：

1円玉を、お皿の水面上に静かに置いてごらん。何個も。どうなったかを絵を添えてレポート提出。約1/3の学生はなにもおこらなかつた、約1/